

開催年月日 令和5年9月29日(金)

質問者 日本共産党 丸山 はるみ 委員

答弁者 感染症対策局長 山谷 智彦

感染症対策課長 川上 禎之

質問内容	答弁内容
<p><b>一 医療機関等勤務環境改善支援事業について</b>  まず、医療機関等勤務環境改善支援事業等についてお聞きします。</p> <p><b>(一) 「エールを北の医療へ！」に寄せられた寄附金について</b>  本定例会に提案されている一般会計補正予算で、「エールを北の医療へ！」に寄せられた寄附金を活用し、院内感染対策の研修や保健所の備品整備を行うことを提案しています。  寄附金総額と、主な使途内容をそれぞれお答えください。</p> <p><b>(二) 医療従事者の勤務環境改善効果について</b>  寄附金を活用して備品整備を行う箇所は保健所とされています。事業名に「医療機関等勤務環境改善支援」とありますが、研修や保健所への備品整備をすることで、どのように医療従事者の勤務環境が改善されるのか伺います。</p> <p><b>(三) 研修会開催費用の寄附金充当について</b>  寄附金を活用して院内感染対策の研修を行うということですが、こうした研修はこれまでも道として実施していたのでしょうか。これまでの研修実績について伺うとともに、寄附金を活用して研修を実施する理由をお答えください。また、これまで医療機関向けの研修に寄附金を充当したケースはあったのでしょうか。</p>	<p><b>【感染症対策課長】</b> (総括調整班)  これまでの取組等についてでございますが、新型コロナウイルス感染症に対応する医療従事者の方々への支援や医療資機材の整備を目的としまして、令和2年4月から募集を開始しました「エールを北の医療へ！」には、道内外の個人・企業・団体の皆様から、多くの心温まる申し出があり、新型コロナに限定した募集を終了した8月末までに、約13億9千万円もの御寄附をお寄せいただきました。  道では、この間、いただいた寄附金を活用し、医療機関で感染対策に携わった従事者の方々に、寄附者の皆さまのメッセージを添えて、道産品ギフトをお届けしたほか、医療機関における従事者の方々の休憩室などでの感染防止対策を支援をしてきたところでございます。</p> <p><b>【感染症対策課長】</b> (総括調整班)  医療機関等勤務環境改善支援事業についてでございますが、道では、本定例会に予算提案するに当たりまして、この間、道医師会をはじめとする医療関係団体の皆様に、ご意見等を伺う中、医療従事者の方々が、安全・安心に勤務できる環境につながる感染症対応に関する研修や訓練といった学びの機会を確保して欲しいとのご要望を多数頂いてきたところでございます。  このため、道では、こうしたご要望も踏まえつつ、これまでの新型コロナで得た経験を風化させることなく、変異株の出現や新興感染症等にも、的確に対応できるよう、防護服の着脱をはじめとする実践的な研修や保健所と医療機関が共同で初動対応訓練を行うための、備品の整備を行うことといたしましたのでございまして、こうした研修や訓練を通じた医療現場等の対応力の向上によりまして、医療従事者自らが感染リスクのない環境を作り出すことにもつながっていくものであり、安全・安心な勤務環境の改善が図られるものと考えているところでございます。</p> <p><b>【感染症対策課長】</b> (総括調整班)  医療従事者等への研修についてでございますが、道では、国の補助金等を活用し、医療従事者などを対象とした研修を実施してきておりますものの、感染防護具や感染対策機器などを用いた実践的な研修や訓練を実施することができないため、これまで、講義や事例報告が、その中心となっていたものでございます。</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>(四) 次年度の研修会開催について</p> <p>医療機関向けの研修というのは、道として果たすべき責務だと思います。本来は一般会計で賄うべきものと考えます。研修費用について寄附金頼みでは、次年度以降の継続的な開催ができなくなる心配があると思うのですが、そのことについていかがでしょうか。</p> <p>(五) 寄附金の在り方と財政支出の透明性について</p> <p>寄附金はコロナが5類に移行して以降ですね、大幅に減少しており、寄附金を当て込んだ事業実施は見通しが立たないというふうに心配しています。必要な研修を確実に実施するべく、一般会計からの事業として来年度以降も継続的に実施する必要があると思いますけれども、見解を伺います。</p> <p>また、事業名称に相応しく、医療従事者の勤務環境が改善されたと効果が目に見える施策に寄附金を充当するべきであり、地域医療を守るために北海道として責任を持って実施する事業は、やはり一般財源から支出すべきだというふうに思います。使途の在り方を検討し、財政支出の透明性を図るべきではないでしょうか。そのことについての見解をお答えください。</p> <p><b>【指摘】</b></p> <p>答弁の中で、寄附金の活用の検討に当たって、実践的な学びの機会の提供について医療従事者から多くの希望が寄せられたというふうにあります。新型コロナウイルスもさることながら、今後も新興感染症は出てくるというふうにも思います。防護服の着脱等実際にやってみなければわからない、習得できないこうした事柄についての研修は、やはり財源確保して実施するべきではないかということ指摘して、次の質問に移りたいと思います。</p>	<p>こうした中、寄附金の活用の検討に当たりまして、道医師会をはじめとする医療関係団体の皆様から実践的な学びの機会の提供について多くの要望が寄せられましたことから、今回、初めて、寄附金を活用し、実践的な研修や訓練を実施するものでございます。</p> <p><b>【感染症対策課長】</b>（総括調整班）</p> <p>今後の研修等についてでございますが、この度の研修は、医療従事者の方々に広く受講していただくため全道各地で開催することに加えまして、研修の内容を記録し、教材の作成も含めることとしているものでございます。</p> <p>道では、本事業で作成する教材等を活用しながら、次年度以降も、医療機関における自主的な研修をはじめ、保健所が主催する研修などにおいても、有効活用していくこととしておりまして、地域における医療現場等で感染症対応力向上のための研修を継続して実施することが可能と考えているところでございます。</p> <p>道といたしましては、今後とも、関係団体等の御意見も伺いながら、その時々により必要とされる効果的な研修を進めてまいります。</p> <p><b>【感染症対策局長】</b>（総括調整班）</p> <p>寄附金を活用した事業についてでございますが、この度の事業は、医療従事者の方々の利便性も考慮し、全道各地で研修を実施するほか、研修内容を映像として残し、教材を作成することで、これを活用して、次年度以降も継続した研修の機会を確保しようと考えているものでございます。</p> <p>寄附金を活用した事業の検討に当たりましては、これまでも医師会・看護協会等関係団体の御意見を伺ってきた中、現在のコロナ対応はもとより、今後起きうる変異株の出現や新興感染症の発生等にも、地域で的確に対応できるよう、医療従事者の学びの場の確保について要望されたものでございまして、実践的な研修や訓練を通じて、医療従事者の方々の感染症への対応力向上と安全・安心な勤務環境の確保を図ることが、その声に寄り添いつつ、この寄附金の目的である医療従事者の支援に当たるものと判断し、寄附金を活用した事業として本定例会に予算提案をさせていただいているものでございます。</p>

